

## ホスト機関からのコミットメント

平成24年2月9日

文部科学省 宛

ホスト機関名 東京大学  
ホスト機関の長の役職・氏名 総長 濱田純一

「世界トップレベル研究拠点プログラム」に採択された「数物連携宇宙研究機構」に関して、以下に示す事項について責任をもって措置していくことを確認する。

### <中長期的な計画への位置づけ>

※ 「当該拠点をホスト機関の中長期的な計画上に明確に位置づけ」ということに関し、どのような計画にどのような形で位置づけるかについて具体的に記載。

時代は今、大きな変化の時を迎えている。それに対して、大学や学問は、変化をよりよい方向にリードしていく、重要な役割を果たすことを求められている。東京大学では、こうした社会からの期待に応えるべく、『東京大学の行動シナリオ—FOREST2015—』を作成し、2010年4月からスタートさせた。この中では、重点的に取り組むべきテーマの一つとして「学術の多様性の確保と卓越性の追求」を挙げ、「世界最高水準の卓越した研究を遂行する」、「国際発進力を強化し、総合研究大学としての国際的プレゼンスを高め、大学間連携や学術を先導する」ことなどを達成目標として設定している。これらの目標を達成するための具体的取組の一つとして、このたび、「東京大学国際高等研究所(TODIAS)」を新たな全学組織として設置した。同研究所には、「世界を担う知の拠点」たるにふさわしい研究機構を置き、東京大学全体の学術の卓越性の向上及び国際化を強力に推進することとしている。東京大学では、新たに設置した国際高等研究所の活動を含め、日本の未来、世界の未来に対する公共的な責任を果たして参る所存である。

TODIASには、(1) 世界トップレベルの研究拠点として公的機関や研究者コミュニティー等に評価されていること、(2) 運営を賄うに十分な外部資金を獲得していること、および(3) 国際的な研究環境を構築していることの三つの要件を満たす研究機構を置き、人事・給与等の学内ルールを緩和することなどにより、その活動を強力に推進することとしている。2011年1月11日に開催されたTODIASの第1回運営委員会において、これらの要件を全て満たす研究機構として、「数物連携宇宙研究機構(IPMU)」が適当であるとの意見がとりまとめられ、これを踏まえ、TODIASに置く研究機構の第一号として、当該拠点を決定した。当該拠点が大学内の恒久機関になるための極めて重要な足がかりである。TODIASは、IPMUがより安定的な体制の下で迅速かつ柔軟に、これまでもまして活発な研究活動を展開できるように当該拠点スタッフと協力して基金や外部資金や寄付の確保に最大限努力する。これまでTODIASのような新機関は大学全体の文科省への概算要求の中に提案を入れる資格を持たなかったが、大学本部はTODIASがそれをできるという決定を下した。したがって、当該拠点はTODIASを通じてその持続のための資金を獲得する機会が与えられる。

さらに本学は人的および財政的資源の弾力的かつ革新的体制の確立に向けて全学組織の改革を進めていく。当該拠点のような新しい学際的研究機関を設立して持続させていくためにはこのような改革は不可欠である。このような機関にテニユア相当の職を与えることは大学本部にとって大きなチャレンジである。たとえば、通常の財源と外部資金の両方を使うとか、外部資金だけを使うが現在のルールを越えた多数回の契約を繰り返すなどの新しいタイプの雇用形態が考えられる。このような取り組みには人的管理システム改革の効果があるため、本学は果敢に挑戦していく。

本学は上の述べたような計画をWPI資金終了後も強化していく。より柔軟で革新的な人的資源運営システムが本学に取り入れられれば、当該拠点が外部資金だけでは持続できなくなった場合でも一定期間本学資金で支援することが可能になる。さらに、たとえばオーバーヘッドを増額して大学運営に回せるようにするなど、国家財政システムがより柔軟になれば、本学の人的財政的運営システムの改革努力はもっと加速されるだろう。そのような運営システムは本学のさらなる当該拠点への支援を可能にする。

## <具体的措置>

※ 以下のそれぞれの事項について、具体的措置を記載。

- ① 当該拠点が、拠点運営及び拠点における研究活動のために、本プログラムからの支援額と同程度以上のリソースを当該拠点に参加する研究者が獲得する競争的資金等の研究費、ホスト機関からの現物供与等（人件費の部分負担、研究スペースの提供等）もしくは外部からの寄付等により確保するに当たり必要な支援を行う。

本学はTODIASに属する当該拠点を、従来の大学組織との連携を促進する役割を果たす総長室直属の組織と位置付ける。大学本部は、当該拠点に参画する主任研究者が学内の業務負担を極力少なくして研究に専念できる時間を確保し、より研究費を確保しやすくなるように環境整備を行う。この環境整備の一環として、優れた研究者や優秀な支援スタッフを確保できるようにするための新たな雇用制度を既に創設しており、例えば総長より高い年俵で雇用することを可能としている。さらに、学内の研究スペースの優先的提供も行う。また、大学本部に、外部資金を戦略的に獲得しその資源を効果的に配分するための企画立案を行う組織「財務戦略室」を設置する。これにより、当該拠点に対し、学内資金を活用した最大限の財政的支援が可能とする。

- ② 拠点運営に一定の独立性を確保するため、「拠点構想」実施に当たって必要な人事や予算執行等に関し、実質的に拠点長が判断できる体制を整える。

本学は、当該拠点を従来の大学組織と有機的に連携した総長室直属の組織に位置づけることを可能とする革新的な制度を新たに整備した。2011年1月のTODIAS発足とその所長の任命により、すでに進められている総長と研究担当理事による戦略的運営が当該拠点をより強固なものにする。この仕組みによって当該拠点は拠点長のマネジメントの下で研究者の選考を含めたあらゆる組織運営が可能となっている。

- ③ 機関内研究者を集結させるに当たり、ホスト機関内の他の部局における教育研究活動にも配慮しつつホスト機関内での調整を積極的に行い、拠点長を支援する。

当該拠点に集結した研究者が所属していた学内部局の教育研究活動に支障が生じず、滞りなく発展できるよう、大学本部として当該部局に対し、代替教員の人件費等、必要な財政的支援を行う。これにより、当該部局は代替教員の確保などの措置が可能となるばかりでなく、学内研究者の流動性をさらに高めている。

- ④ 機関内の従来の運営方法にとらわれない手法（英語環境、能力に応じた俸給システム、トップダウン的な意志決定システム等）を導入できるように機関内の制度の柔軟な運用、改正、整備等に協力する。

本学は、当該拠点をTODIASに所属させる独創的な制度を作り出した。これにより、当該拠点は拠点長のトップダウンマネジメントの下で研究者の選考を含めたあらゆる組織運営をおこなう。その一方、当該拠点を特区と位置づけ、拠点に参画する研究者や支援スタッフに対し、通常学内で適用されている就業上の制約を限定的に解除する特別な規則を新たに制定する。

- ⑤ インフラ（施設（研究スペース等）、設備、土地等）の利用に関し便宜を図る。

本学は、優秀な外国人研究者が安定して研究できる環境整備を重要視している。現在、総長のリーダーシップの下でキャンパスの国際化を積極的に進めており、2009年にはキャンパスの周辺に外国人宿舎が開設した。当該拠点のために海外から招聘する研究者に優先入居枠を設けることもおこなわれている。また、本学は、世界トップレベルの研究設備を多数整備していて、2009年末には大学の資金によってIPMU研究棟も完成した（さらに2009年度補正予算によるIPMU第2研究棟も2011年初頭に完成した）。大学は必要に応じてさらに当該拠点の設備整備を支援していく。

- ⑥ その他、当該拠点が「拠点構想」を着実に実施し、名実ともに「世界トップレベル拠点」となるために最大限の支援をする。

TODIAS発足にともない、TODIASおよび当該拠点事務部門は大学本部の研究振興課の外部資金系の支援を受けている。この制度により本学は、これまでどおり、当該拠点のために最大限かつ安定的に支援していく。